



鍋蓋山頂手前の山道



このあたりの道には円い礫が転っていたり、顔を出したりしている。



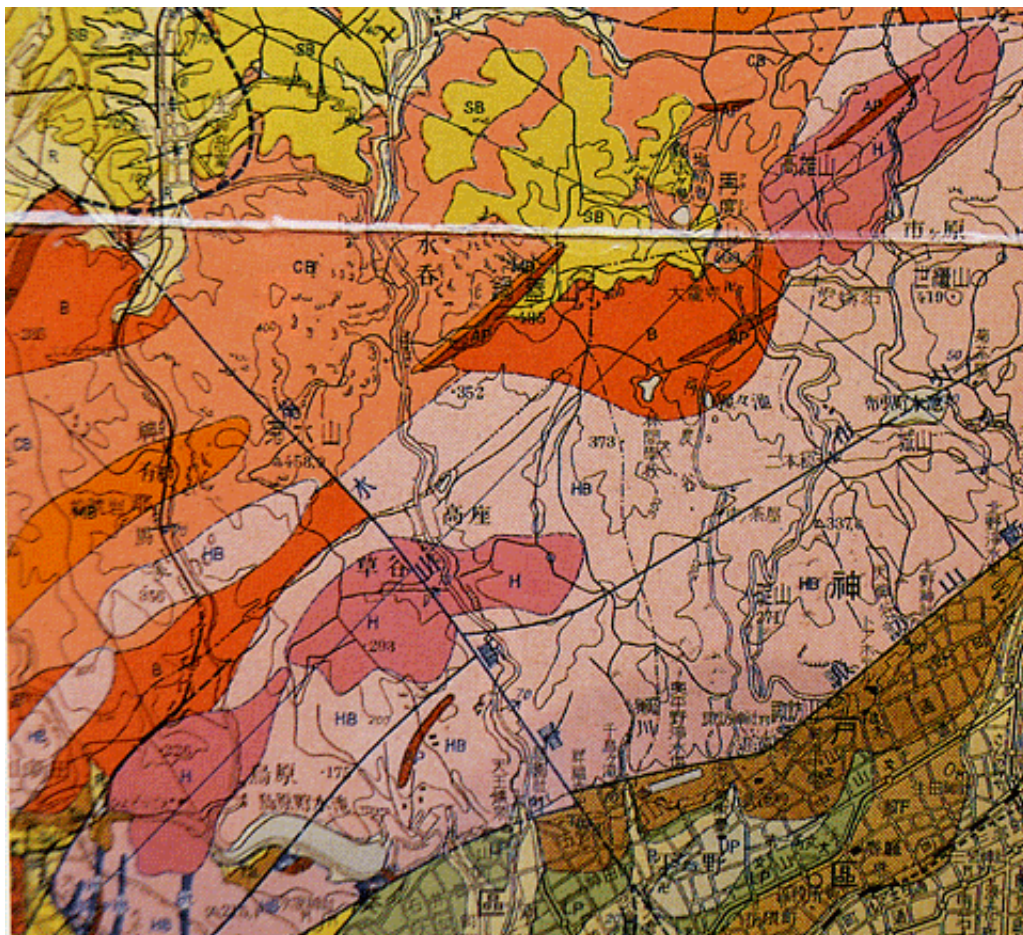
アカマツ林の中にポツと三角点（486.5m）がある。ここがまわりの土がなくなり三角点の標石がむき出しになっている。



礫は高圧線の真下あたりからみつかる。



鍋蓋山頂は木立のなかにある。



鍋蓋山の尾根筋に神戸層群が分布するのは、昭和13年に作られた上治寅次郎博士の「六甲山塊地質図」に記入されている。図中の黄緑色のS Bの部分がそれである。（上治寅次郎、1937）

